

第10回軽井沢町庁舎改築周辺整備事業推進委員会 会議録

1. 開催日時 令和6年8月19日（月）午後2時から午後4時まで
2. 開催場所 軽井沢町中央公民館 講義室
3. 出席者 委 員：池田靖史委員、佐藤絵理委員、小林久史委員、
大町哲也委員、小林美智子委員、外川樹美代委員、
田村恵美委員、佐藤公貴委員、小林広幸委員、
大工原亮子委員、小林里恵委員、篠原幸雄委員、
饗場晴雄委員、佐藤一郎委員、本城慎之介委員、
福原未来委員、柴崎雅寿委員、野村有里委員、
船曳鴻紅委員、堀内勉委員、山崎元委員、
上田公三委員
町：土屋町長、小池副町長
事務局：新庁舎周辺整備課 土赤課長、篠澤室長、佐藤
：生涯学習課 外川補佐、新海館長
欠席：堀池玲子委員、島崎直也委員
4. 議題
 - (1) 庁舎改築周辺整備アドバイザーについて
 - (2) たたき台・方針案に対する住民からの意見について
 - ア パブリックコメントについて
 - イ 住民説明会について
 - (3) 基本方針の見直しについての議論
 - ア 財源について
 - (4) 基本方針の策定について
 - (5) 今後のスケジュールについて
 - (6) その他
5. 傍聴人数 15名

【事務局】

それでは定刻となりましたので、ただいまより第10回軽井沢町庁舎改築周辺整備事業推進委員会を開催いたします。

本日はお忙しい中、本委員会にご参集いただきまして誠にありがとうございます。

本日の委員会ですが、委員24名のうち島崎委員から欠席の連絡をいただいております。堀池委員がまだ来られていないようですが、軽井沢町庁舎改築周辺整備事業推進委員会設置要綱第6条第2項の規定によりまして過半数の出席が認められますので、本委員会が成立していることをご報告申し上げます。

なお、後ほどの議題もございますが、本日は庁舎改築周辺整備アドバイザーのお二方にもご出席をいただいております。

また、町長ですが、公務の都合上、3時頃をめぐりに出席をいただく予定となっております。

続きまして、傍聴者の皆様へお知らせいたします。携帯電話をマナーモードにするなど、音の出ない設定にさせていただくとともに、会議中はお静かに願います。

また、会議資料につきましてはSNS等での発信は行わず、個人の利用の範囲内での持ち帰りを可とさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

最後に、資料の確認をお願いいたします。

まず本日の次第が1枚、一番上にあります。その後資料1として基本方針たたき台についての意見の一覧、資料2として基本方針案に関する説明会での質問、意見の要旨また資料2-1としましてそれに対する町の考え方、資料3として基本方針案の抜粋、資料4が推進委員の皆様へのお願い、こちらは令和5年12月の第2回の推進委員会で配布した資料になります。それと資料5、今後のスケジュールということで以上7点ですが、お手元がない方いらっしゃいましたら申し出てください。

よろしいでしょうか。

それではこれで議題に入りますが、設置要綱第6条第1項の規定によりまして、委員長が議長となりますので、議事進行を池田委員長よろしくお願いいたします。

【委員長】

はい皆さん、改めましてこんにちは。

本委員会も今回で10回目になりました。

まだまだ先に議論していかないといけないことはこの先もありますが、でも一つのフェーズのひと区切りになる会かなというふうに考えております。本日の議題に入らせていただきます。皆さんよろしくお願いいたします。

まず議題の(1)になります庁舎改築周辺整備アドバイザーについて事務局よりご説明とご紹介をお願いいたします。

【事務局】

はい。それでは事務局より説明とご紹介をさせていただきます。

委員会での検討事項でありました、庁舎改築周辺整備アドバイザーにつきまして、町側の立場に立った、より専門的で具体的な助言や設計内容の確認を補助する役割を担っていただくということで6月24日から7月12日まで募集を行い、複数の方からの申し込みがありました。公募人数1名としていたところなんですが、書類や聞き取り等により慎重に審査を行わせていただきました結果、異なる視点からの幅広い助言を期待いたしまして、2名の方をお願いすることとなりましたので、ご紹介をさせていただきます。

まず、お一人目は、小林精三さんです。

小林さんは、国立小山工業高等専門学校建築学科卒業後、現在のNTTファシリティーズになります、電電公社東京電気通信局建築部に入社されました。平成3年には青年海外協力隊に在職参加されケニアに赴任、エルドレット市役所の上級建築士として3年間勤務し、市役所別館新築計画等の公共建築の設計や工事監理に携わられました。その後、NTTファシリティーズ首都圏事業本部設計部門にて、都立石神井高校改築工事の設計主任として従事、その他にもNTTグループや民間の多数の建築設計に従事されました。

平成16年にNTTファシリティーズコンストラクションマネジメント部に所属され、以後公共工事・国内外の民間工事における発注者の建築コンサルタントとしてプロジェクトをサポートされてきました。両国中学校改築工事の設計VE業務を実施、その他スカパー東京メディアセンター新築、シンガポールデータセンタ新築等のコンストラクションマネジメントを行い、発注者への助言や

支援を通じて、設計者や工事会社とともに多数のプロジェクトを完成に導かれています。

また、日本コンストラクションマネジメント協会では、平成27年から4年間理事を務められ、コンストラクションマネジメントの普及と発展に努めてこられました。

平成17年からは軽井沢町に在住されており、今年3月にNTTファシリティーズを退職されました。

設計20年、コンストラクションマネジメント20年の計40年の建築に携われた実績から、発注者・受注者両方の視点で事業の分析を行い、助言いただけるということでアドバイザーをお願いすることとなりました。

そしてお二人目は、原裕介さんです。

原さんは、早稲田大学大学院を修了後、株式会社栗生総合計画事務所、デザインオフィスnendoを経て、株式会社デザインキット一級建築士事務所を設立されました。事務所における設計活動の傍ら、東京大学の特任助教として建築・都市の実践的研究も行っており、円借款事業のインド工科大学ハイデラバード校のキャンパス計画や変なホテルハウステンボスのプロジェクト開発に携わられています。

また福島県田村市に設立されたアーバンデザインセンター田村(UDCT)では、副センター長を勤められ、地方小都市におけるまちづくりを実践してきた経験をお持ちです。

2016年からは千葉大学予防医学センター健康都市まちづくり分野特任准教授として建造環境が人間の健康にどのような影響をもたらすかについて、公衆衛生学、建築学、都市計画学、地理学分野等の視点から研究をされています。

平成30年から軽井沢に在住されています。

地方自治体との協同や、複雑多岐なステークホルダーとの対話が求められるプロジェクトに携わった経験をお持ちであり、都市計画やまちづくりの視点から町全体を俯瞰的に理解し、空間的に考え助言いただけるということからアドバイザーをお願いすることとなりました。

以上、簡単ではございますが、お二方の紹介となります。お二方には、まず今後予定しております基本計画策定に向けまして、広くご意見・ご助言いただくこ

とになります。よろしくお願いいたします。事務局からのご紹介は以上となります。

【委員長】

はい。それではアドバイザーご本人のお二方からも自己紹介をお願いしたいところで、まず小林さんからお願いします。

【小林アドバイザー】

皆さんこんにちは。ただいま紹介いただきました小林です。先ほど経歴をちょっと説明していただきましたけれど、概ね、設計で20年、コンストラクションマネジメントで20年ということで建設プロジェクト等に国内外、後は民間を含めていろいろ携わらせていただきました。それと同時にですね、こちらの軽井沢の方にはですね、ちょうど20年目に住んでなります。子供を保育園からですね、今年下の子が大学卒業しまして、一応軽井沢で全部育て上げて、母の方もですね、2年前に介護施設からですね、ちょっとコロナで全然面談ができなかったんで、うちの方に来てもらって、ちょっと介護して看取った。そういった育児やですね、介護っていう中で町の施設とかサービスとかっていうの非常にいろいろ使わせていただいたという視点もあるので、先ほどの専門的なところだけでなくですね、町民としての視点を持った形でですね、良い施設づくりに関われたらいいなと思っております。よろしくお願いします。

【委員長】

ありがとうございます。それでは原アドバイザーお願いします。

【原アドバイザー】

どうも原と申します。よろしくお願いします。今ご紹介いただいた通りの経歴ですが、建築の専門家、建築の設計やデザインの専門家であると同時にまちづくりに長く携わってきました。なので、なんですかね、建物の最適化っていう視点もそうなんですけど、少し町を俯瞰して、今回の庁舎はどうあるべきかっていうのを丁寧に考えるお手伝いできればなと思ってますので、よろしくお願いします。

【委員長】

ありがとうございます。それではちょっとこの機会ですので、アドバイザーのお2人にもし何か委員の皆さんからご質問等があればこの機会にお受けしたいと思います。と思いますが、いかがですか。またこれから、この会議でお話することいろいろ

あると思いますけども今日の時点でもし何かありましたら、はいどうぞお願いします。

【C委員】

大変失礼なことを伺ってしまいますけれども、少なくともあの公募の段階で非常に私の目から見ますと、コンサルティングの報酬が低く設定されて募集されてたように思うんですけれども、それで大丈夫なんですか。

お2人となるとそれがまた2分の1ということになったらさらに悲惨なことになるんじゃないかと思えますけれども。

【委員長】

こちらは小林さんからお答えいただきましょうか。

【小林アドバイザー】

実はこの3月までですねNTTファシリティーズっていう設計事務所の方で設計とCM（コンストラクションマネジメント）をやってまして、一応退職しまして先ほど申し上げました通り一応育児も終わってまして、今山小屋みたいなところなんですけれど畑をやったりとかですね、いろいろちょっと少しのんびりしながらちょっと考えてみようと思っていたところでしたのでこういう話がちょうどあってですね。金額には関わらずですね、ちょっと町民としては義務じゃなくて、できることをやっていきたいなと。マンションの理事長みたいなもんですかね、そんなような気持ちもありますので特に問題ないと考えております。

【原アドバイザー】

難しい質問ありがとうございます。そうですね、民間のコンサルタントだとするとやっぱりちょっと少しおっしゃられる通りかなとは思いますが、今回の件については一町民としてできる限り力になればと思ってますので、そのあたりは気にしておりませんのでよろしくお願いします。

【委員長】

大変ありがたいご意見ありがとうございます。他にございますでしょうか。

よろしいでしょうか。ではこの後、アドバイザーのお二方については、事業が円滑に進むように尽力どうかよろしくお願いいたします。

それでは次に移らせていただきたいと思います。基本方針のたたき台案に関して住民の皆さんから意見をいただいておりますので、それについて町からの説明をしていただきたいと思います。

【事務局】

ご説明いたします。まず、アのパブリックコメントになります。資料1としてまとめてございますが、6月24日から7月23日までの約1か月間、「庁舎改築周辺整備事業基本方針（たたき台）」への意見募集を行い、17名の方から意見をいただいております。提出人数は多くありませんが、複数の意見をお寄せいただいた方が非常に多く、直接事業とは関わりのない質問まで含めまして、細かく分けますと80件以上の多くのご意見をいただきました。個々の説明は行いませんが、それぞれ町の考え方として回答を記載しておりますので、ご覧いただきたいと思います。

続きまして、イの住民説明会となります。こちらは先月の推進委員会での議論を経て整えました「基本方針（案）」についての住民説明会となりまして、8月2日から5日にかけて、オンラインを含めて計4回開催し、32名の方に参加いただきました。

昨年8月に実施しました「見直し方針」の住民説明会の、全3回で参加者90名と比べると1/3程度となりました。

また、参加者32名のうち、先ほどのパブリックコメントをお出しいただいた方も7名参加されており、もれなく質問や意見等いただきました。

資料2は説明会での質問や意見の要旨、資料2-1が質問に対する町の考え方となっております。パブコメと同じく個々に説明は致しませんが、厳しい意見もあった中、これまでにはなかった見直し以降の進め方に対する賛辞のお声もいただき、見直し以降力を注いできた合意形成を大切にしてしっかりとしたプロセスを踏んで進めてきたことが実を結んだと感じております。説明は以上になります。

【委員長】

はい、ありがとうございました。それではまずこの件に関するご質問の時間をとりたいと思います。資料見ていただいて、何か気になることがありましたら挙手をお願いします。

【C委員】

資料1のパブコメに対して町の考え方ということで、記載されておりますけど、この町の考え方というのは担当課ということなんでしょうか。それともこれまでこの見直しについてアドバイザーとして入っておられる山下三浦JVとも

お話になってることなのか、もしくはその中には財務的なご意見もありましたので、それについては町役場全体として取り組まれたのか教えていただければ。

【事務局】

はい、それではお答えさせていただきます。こちらの町の考え方でございますけれども、町全体として、また設計者として携わっていただいている山下三浦 J V の皆さんからいただいております、みんなの回答というふうに受け取っていただければと思います。先ほどもあったんですけれども、パブコメと住民説明会での参加者の方が重複していらっしゃる方、結構おまして、その説明会の中でも山下三浦 J V の皆さんにお答えいただいた専門的な部分もございましたので、それと齟齬がないような形でこちらの方も回答させていただいているところです。

【B 委員】

パブコメと住民説明会とお疲れ様でした。ちょっと忙しくて何もお手伝いできなくてすいませんでした。

起債をするというところと、その未来の世代に公平に分担をしていただくということに対する理解度っていうのがまだまだ浸透してないかなという印象だったんですけど。このパブコメと住民説明会を経て、どんなご印象を持たれましたか。何か皆さんわかっていただきつつあるのか。やっぱりちょっとまだまだだなというところなのか、何かそこら辺を教えていただけるとありがたいです。

【委員長】

特に財務部分に関する理解度についてですね。お願いいたします。

【事務局】

お答えします。説明会等を実施している中で、理解度って中々まだ伝わりきってない部分があるのかなとは思っておりますが、まずこれはしっかりと説明していくしかないのかなというところで、またこれからも理解を求めてやっていきたいと思っております。

【委員長】

他にありますでしょうか。

ちょっとこちらから今日ちょっと見えにくいところもあるのでなるべくわかりやすく手を挙げていただけるとありがたいです。

そしたらちょうどこのお話今いただいたように、次の(3)のですね、実は基本方針の見直しの議論の中で、前回の委員会で今あった起債を含めた財源に関する説明がもう少し必要だと、こういうことをお話し合いをさせていただきました。それを事務局にお願いをした結果として、今回この財源に対する部分の大幅な追加情報を入れていただいたというふうに理解していますので、そのご説明をよろしく願いいたします。

【事務局】

はいそれでは、財源につきましては、前回の委員会において、またパブリックコメントや住民説明会でも意見・質問が多数出ておりますので、改めて、ご説明させていただきます。

特に資料は用意してございませんので、スクリーンをご覧いただきたいと思います。こちらは今年3月の第5回推進委員会での「基本方針の見直しについての議論・適正な事業費の検討」において、土屋町長が説明時の資料となります。この時のご説明の要点として、事業費と財源は、双方のバランスを見ながら議論を進めるべきということ、財源は「基金」「補助金・交付金」「起債」「一般財源」の4つであるということ、次のスライドは、起債についての考え方で、公共的な建物は、長期間使用するため、世代間で公平に負担していくという考えが一般的であること、次のスライドは、仮に50億円を借りて、毎年1.67億円の返済をすると仮定した場合、現在の一般会計予算に占める割合で1%を切るので財政的に問題はないということ。同じページの下には、収入額（財政規模）に対する借金の返済額の比率である実質公債費比率を見ると、県内市町村平均が6.3%であるのに対し、軽井沢町1.5%となっていることが示されておりまして、健全な財政を維持しているので起債すること自体も問題はないということ、それから次のスライドになりますが、仮に起債をして年間1.67億円返済するとしても、これまで年間3億円程度積んでいる基金よりは少ない額で済むこと。

以上のことから、起債をしても財政基盤として問題はないということを、この3月の委員会で説明しており、その考え方は現在も変わっておりません。

前回の委員会、パブコメ、説明会等での「方針での財源説明が足りない」との意見を受けまして、基本方針（案）の財源に関するページを修正しておりますので、資料3の30・31ページをご覧ください。

30ページ、全体的な考え方は変更ありませんが、財源として考えられるものは①基金、②補助金・交付金、③地方債としまして、それぞれの説明としました。

①の基金についてはこれまでと同じ内容です。②の補助金・交付金につきましても、大きな変更はありません。詳細な設計検討が進んでいないため、具体的な金額はお示しできませんが、令和6年度現在公表されている補助金の中で、活用できる可能性のある補助金対象事業を例として挙げました。なお、補助率や上限金額も現段階での情報であるため、今後要件等が変更する場合がありますのでご注意ください。

それから31ページにいきまして、「③地方債」となっています。地方公共団体が地方債の借入れを行うことを「起債」というため、語句を変更しました。

その起債をするためには、総務大臣や都道府県知事に協議・届出を行いまして、財政指標により健全性が認められない場合には国の許可も必要となります。お金が足りないから、借りたいだけ借りられるということではなく、対象事業や借入先などの定められた基準がありまして、条件等を満たしたうえでの借入れとなることを記載してあります。

また、先ほどの説明にもつながりますが、将来にわたって施設を利用いただく皆さんにも負担していただくことで、世代間負担の公平性を保ち、財政負担の平準化が図られることから、計画的な財政運営のための有効的な手段であることも記載しました。さらに、補助金・交付金と同様に、活用できる可能性のある地方債対象事業の例としていくつか挙げております。

方針の本文の修正につきましては、以上となりますが、他の自治体の状況について簡単に説明いたします。

スライドになりますが、まず、御代田町ですが、22億6,500万円の事業費に対して、基金13億4,600万円ほど、起債9億1,900万円ほどとなっています。

その下、川上村は20億2,200万円ほどの事業費に対して、基金4億5,600万円、補助金2億8,900万円、起債12億7,600万円となっています。

そして、現在基本計画段階の埼玉県富士見市ですが、その概算事業費として約126億円のうち基金28億円、起債85億円としており、いずれも事業費の半分近く、あるいは大半の財源を起債で賄っていることがわかります。

起債につきましては、前回の委員会において20,000人の人口規模で地方債50億円という規模は考えられないのではというお話がありましたが、基本方針第

5章新庁舎の規模にありますとおり、当町は国際親善文化観光都市であることや別荘所有者など住民票を町に置いていない方が常住人口として一定数いるため、その方々、いわゆる住民の方に対する行政サービスを行うための規模が必要であり、人口の観点から一概に他の自治体と比較することはできないと考えております。

だからと言って際限なく起債をすれば良いという考えではまったくなくて、これまでの方々に負担してきていただいた、また現在の方々に負担していただく基金と、これから施設を使っていただく皆さんにも負担いただくという必要最低限の起債をバランスよく合わせ、過大な建物とならないよう、事業費の抑制を図り、皆様に建ててよかったといわれる役場庁舎や公民館機能拡充施設になれるよう、皆様と事業を進めてまいりたいと考えております。以上、説明となります。

【委員長】

はい、ありがとうございました。今ご説明あったとのことで、後で実は町長もこれに関連して3時に来られるって聞いているんでそのときに追加の質問をしていただいても構わないと思いますが、説明があったのは、かなり多角的にいろんなところから考えて、現状の起債というのが最低限必要な順当なものであるというふうに町としては、今事務局としては考えているというご説明だったと思います。これについて何かご質問等あればまずはよろしくお願いします。

【C委員】

ご提案ですけれども、もっと町民の方々に非常にわかりやすくするために、1町民に当たりの起債額、全国市町村の庁舎建設に関して1町民あたりの起債額っていうのを表として出していただくと大変わかりやすいんじゃないかと思います。

【委員長】

事務局いかがでしょうか。お答えになりますか。

【事務局】

ご提案ありがとうございます。先ほどの説明もございましたが、当町の庁舎は人口だけ他の自治体と比較するものではないと考えております。多くの常住人口の方がいらっしゃいますので、1人当たりというのを単純に人口で出すこと

はできるかもしれないんですけども、でもそれが適正かどうかという判断
ってというのはなかなか難しいと考えております。

【C委員】

適正かどうかはこれから皆さんで議論されることだと思いますので、一つの
データとしてご提案しました。もし別荘住民の方で、常駐されていることが何か
でわかるようなデータをお持ちであればすればそれも参考になるかと思いま
す。基本としては町の方々だと思いますけれども。ですからあくまでその判断はこ
れから議論していくことであって、担当課として一つの参考資料としてわかり
やすいデータとして出していただいたらどうかという提案になります。

【委員長】

事務局から追加の説明ありますか。はい。

【事務局】

はい、せっかくご提案いただきましたので、データを整理させていただいて、
またご示したいと思います。その上でまた見ていただいてご判断いただけれ
ばと思います。

【委員長】

C委員のご意見は、今回の基本方針の中にその項目が含まれているべきであ
るというふうに理解してよろしいのでしょうか。それとも今後のためについてい
うことでおっしゃってますか。

【C委員】

できるだけ、肅々とこの会が進むべきだと思いますので、出せるデータは早く
出していただいた方がいいと思います。

【事務局】

今回、基本方針の中にそれを入れるということではなくて、別でデータ整理し
ましてまたお示しをします。委員会はこれで終わりっていうわけではないので、
また次の委員会とかでお示しするような形でお願いしたいと思います。

【委員長】

他にはいかがでしょうか。先ほどいくつか挙げていただきましたけど、多分こ
の起債が順当じゃないかと言っている最大の論拠は、この図にもある40億円を
過去30年で積み立ててきたと同じ、ほぼ同じ負担を、次の30年間に次の世代が負
担するとすればっていうそういう論拠になってると思います。なのでこの表に

なっておりまして、これまでに40億円積み立てましたと、次の30年間に次の世代がほぼ同額ぐらいを負担すべきなんじゃないかという考え方だと思います。

そうすると今80億になるのですが、その他にそれ以外の補助金等が加わって今の規模に近づくということを多分言わんとしてると私は解釈しています。それでこの絵があるってことですね。はい。

【B委員】

ちょっと起債とか事業費に対するこの委員会の役割立場というものをちょっと再確認したいんですけれども。まずこの事業費とか起債に対して委員が納得しているということが、まず第一歩目で必要なことという理解でいいですか。

【事務局】

はい当然納得していただくのが一番いいとは思っていますが、例えば全員が納得できていないとしてもそれは仕方ない部分もあるのかなと。

委員会の委員としての、委員会としては意見としてはあったとしても、最終的には町として判断してさせていただく部分も出てくるのかなというところもございます。

【B委員】

設計者の方々のときのように何名か反対されてらっしゃる方がいますけど、委員会としてはこういう意見でしたというのが町長に上がるという理解でいいんでしょうか。

【事務局】

全体的な皆さんの意見を踏まえて判断をするということになる。

【B委員】

それが、議会にかけられるという理解でいいですか。この事業費をいくらにするとか、起債をするということに関して。

【事務局】

事業費いくらっていうのはもう当然議会も関係してくると思います。その中で、例えば起債とかその辺は特段この金額でいきますっていうことを議会に諮るということではないのかなとは思いますが。。。

すいません、事業費につきましても予算化したときに議会にかかりますし、その起債につきましても予算書の中にこれだけ借りる予定ですというようなことで地方債（起債）もやはり議決案件だとは思っております。

【B 委員】

最終的に決定するのは議会が、全体の規模と起債の額というのは決定する。権利を持ってらっしゃるのは議会であるという理解で大丈夫ですか。

【事務局】

予算規模に対する議決案件としてございますので、それは議会にお認めいただくことが必要だというふうに考えております。

【B 委員】

はい、ではもしこの委員会の中でもどうしても反対だみたいの方は、その議員さんとしっかりと話をしてそういう動きをとっていくと、反対をする方法が手にできるという理解ですよね。逆に言うと賛成の方は議員さんと話して、これで進めていきましょうよという会話をしていくと、町民としてはその意見を通す可能性が出てくるということですよね。つまり何が言いたいかというと、この委員会が決定する場所ではないですよ、ということだと思うんですけど。

【委員長】

委員長としては、委員会としては、委員会としてこれに対してどういう意見が大勢を占めているというようなことはまとめさせていただきますが、委員会が良いと言ったわけだから、町として良くなる（町がその通りにする）というものではないという認識で合ってると思います。

はい、ありがとうございます。

【F 委員】

先ほど町民もしくは住民 1 人当たりの起債額というお話ありましたが、参考データとして良いと思います。ただ 1 人当たりの起債額を出すのであれば、同時に 1 人当たりの税收額も出してはどうでしょうか。収入に見合った支出又は借金かどうかだと思いますので、その両方のデータがあることによって、その起債額が適切かどうかの参考になると思います。起債額だけが独り歩きしないようにしてください。

【委員長】

はいよろしいでしょうか。特に町の財政は固定資産税がありますので、必ずしも住民単位という部分じゃないのがありますので、その部分を含めてデータ化していただかないといけないと思いますね。

はいよろしいでしょうか、ちょっと町長がまだなのですが、来たときにまた補完説明をしていただくということにして議事の方を先に進めさせていただいてよろしいですかね。それでは(4)の基本方針の策定についての部分を先に行きたいと思いますけどよろしいですか…

町長を待っている間に、(5)の今後のスケジュールについての方を先にやらせていただきますでしょうか。

【事務局】

すいません。では先に今後のスケジュールについて説明させていただきます。資料の5をご覧ください。

本日の委員会で基本方針を策定させていただくという向きになろうかと思えますので、その後のスケジュールを整理させていただいた資料となっております。

本資料は推進委員会の開催を軸に作成しておりますが、9月は一旦開催なしということで、10月以降毎月開催を予定しております。

9月につきましては、私達事務局の方で住民の皆様からの意見聴取の期間に充てたり、資料を左端に記載にありますA B C案を検討するための資料を作成したり、もちろん基本計画の策定に向けた各種準備をする期間とさせていただければと考えております。

10月の第11回委員会では、A B C案を絞り込むための検討や基本計画の検討を予定しておりますがここでは住民の皆様から意見を伺う場としてのA B C案の検討会や、無作為抽出による意見交換会、パブコメ等をどのように実施するかを議論いただく予定です。

11月の第12回の委員会では、それらを経て実施しました住民の意見を踏まえてA B C案の最終検討を予定しております。

また次の委員会までにおしゃべり会といった住民の意見を吸い上げる場も検討しております。次に12月の第13回の委員会では、基本計画の素案を議題としまして、次の1月の第14回の委員会まで2回ほど素案について検討させていただいた後、パブコメや住民説明会の実施を経まして、基本方針（基本計画）案としていければと考えております。

基本方針（基本計画）案は2月まで15回の委員会、3月の第16回委員会で議論していただきまして、最終的に3月中に基本計画を策定、公表したい。このよう

に考えております。ただし、以前からスケジュールありきで進めないようにとのご意見をいただいておりますのでその都度、推進委員の皆様としっかり議論を尽くした上で進めてまいります。以上、説明になります。

【委員長】

はい。ちょっと質問に移る前に僕から今ちょっとよろしいですかね。基本計画という言葉と、基本方針という言葉がこの表でもそうですけども出てきて少し混乱しているような感じがするんですが、確認させてもらっていいですか。

※基本方針という発言を基本計画に訂正

【事務局】

ごめんなさい、資料が間違っておりまして基本計画が正しいものになります。それなのですべて基本計画という言葉に読み替えるということで訂正をお願いいたします。

【委員長】

口頭での説明もあわせて読み替えるということでよろしいでしょうか。

【事務局】

はい、よろしくお願いいたします。それとちょっと補足をさせていただいてもよろしいですか。まずですね、これ基本方針を策定することをお認めいただいたということであればのスケジュールになりますが、9月以降来年の3月までのスケジュールになっております。

まずはですね、説明会等でも結構意見をいただいたんですが、ABC案はいつ決めていくのというご意見結構いただきました。ここら辺ですね、ABC案早めに絞っていかなければいけないと私達も思っておりますので、一応11月中旬ぐらいに絞り込めればいいのかというふうに思っております。事務局としてはですね。まだちょっとアドバイザーの皆様ともまだ相談はできていないのでそこら辺は相談して、また考えていきたいとは思っておりますが、まずですね、山下三浦JVの皆様にはABC案の検討を更に進めるような資料を作っていたりしながら進めていきたいと思っております。私達とすれば9月・10月この時期辺りは、それぞれの住民の皆様の意見を聞く期間にちょっと時間を使わせていただきたいと思っております。例えば区長会の皆様とか、公民館施設を利用されている皆様とかそういった方々の意見を聴取させていただいて、皆様はどう思っているのか、意見をいただける方というのは既にいただいております

が、そういった声が上がってこないような方々に私達は聞きに行く、そういう時間にさせていただきたいと思っております。それで、推進委員会を10月から始めさせていただきたい、再開させていただきたいと思っているんですが、その中には、11回と12回の間ではですね、ABC案についての検討をする会みたいなもの設けたり、後パブリックコメントも当然実施したいと思っております。あとですね、無作為抽出の意見交換会。こちらに書いてありますが、こちらは無作為抽出ということで、別荘所有者の方と町民の方と大体1,000人ずつぐらいを予定しておりますが、無作為で抽出した方に意見をいただけないかということでお願いをして、意見をいただける方からいただきたいと思います。そこについてはABC案どうでしょうかということと、事業全般についてということを見聞ければいいのかなと思っております。そのようなことを踏まえながら、あと併せて公民館について考えられてないんじゃないかという意見も説明会等で結構ありましたので、そこら辺もあわせて深い議論になっていくようにしていきたいと思っております。で、12回と13回の間ではですね、おしゃべり会ということでこれまで推進委員の皆様にご協力いただいていた部分を、私達なりにまたやっていきたいということで、ここら辺もグラフィックレコーダーなんかを入れてやれたらいいなというふうに思ったりはしております。そんなことで進めていきまして13回・14回のところで基本計画の素案を検討できたらというスケジュールでございます。それを踏まえて14回と15回の間ではパブリックコメント、また住民説明会等々やりながら基本計画の案にしていって、2月・3月のこの15から16回で基本計画を最終的な策定に持っていければということが現在の事務局の考えでございます。すいません、補足です。

【委員長】

はい。以上、大変ではありますが、スケジュール優先であってはならないという一方で、いつまでもやるわけにはいきませんので、事務局としてスケジュールを寧ろちゃんとお示しいただきましたと。寧ろこのスケジュールでできるかどうかは我々委員会の責任だと思いますが、ただ現時点で本当にこのスケジュールで大丈夫かというようなことも、皆さんのご意見もご質問等いただいた方がいいと思いますので今日出していただいたのはこのスケジュール自体に対するですね、もうちょっと早めに決めないといけないんじゃないか、あるいはこれじゃ無理なんじゃないか等々のご意見があればお願いいたします。

【C委員】

こちらに第11回と第12回の間に無作為抽出意見交換会というのを予定してくださると。私はこういうことをなさったらというふうに言い出した人間なものですから大変ありがたく思います。これなんですけれども、一応構想日本の長野県でも、他町村でやってらっしゃることを全国でもやっています。この例で言いますと、無作為抽出でご協力いただける方に最低4日間ぐらい、かなり集中講義的にお話を聞いていただく。私共の推進委員会においては、もう既に10回に及ぶ委員会があるわけですから、そこまでとは言わずとも、かなりそのきちんとしたお考えいただくベースを持っていただくというためには、これ時間がかかると思いますので、このスケジュールに合わせるとすれば、これをもっと早めに仕掛けるのか。これ予算を取ってからということだと、かなりこれから押していくんじゃないかなという懸念がありますけど、いかがでしょうか。

【C委員】

はいご意見ありがとうございます。以前からですね4日ぐらいの勉強をしてやっていただくことがしっかりした意見が出てそれが正しい方に導かれていくということでご意見いただいております、そこにつきましては、なるべくご意見に沿うように猛勉強の時間も設けてとは思っております。さすがに4日は取れないと思いますが、なるべくとるようにしながら、しかもスケジュールをなるべく押さないようにしっかりやっていきたいと思っております。

【委員長】

他にありますでしょうか。どうぞ最後お願いします。

【A委員】

はいすいません。今日リモートで恐縮です。私の理解が正しいかどうか。確認させていただきたいんですけど、そもそも論になっちゃうんですけど、この委員会の位置づけなんですけど、私は町長に対する諮問機関で、町長に何らかの諮問をして、それで町長が最終的に自分の政治的責任において進め方を決めるというふうに理解しているんですね。この委員会でABC案をピックアップして、例えばA案でいきますと。この委員会が時間をかけて議論して決めてですね、町長はやっぱり自分の政治的な判断としてB案でいきますとか、C案でいきますとかってそういうことが実際に起こるのか。ということについて、不思議な感じがして、実態的にこの委員会がA案でいくって言えば、町長はいいや、そうじ

やなくて私は自分の判断でB案にします。っていうふうになんないんじゃないかなと思うんですけど。そもそもですが、これABCのどれかをこの委員会で決めて、例えばA案でいきます。っていうふうに計画を作らないといけないんでしょうか。という基本的な質問なんですけども。

【委員長】

今の質問は、町長がどうするかは町長が来たときに聞きたいと思うんですけども、制度的にこの委員会の位置づけがどうなっているかという質問でよろしいですかね。

【事務局】

はい、お答えします。A委員から以前、その質問をいただいております、本日それを含めてお答えをしたいと思っております、町長が来たところでお答えしようかなと思っていたんですが、まだちょっと時間があれなので・・・

【委員長】

ちょっと後でもよければその方が。あのAさん。町長の方から直接お答えになる予定があるようですが。

【A委員】

それで結構です。私もちょっとこの委員会に町長が出られてないっていうことと自体がなんか不思議だなと思ってずっと見てたんで、町長がいらしてから直接お話いただけるならそれがベストだと思います。

【事務局】

はい、委員会の建付けからもう一度ご説明させていただいて、町長がどう考えるかっていうのも含めてですね、お答えをしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

【F委員】

はいA委員に近い意見でもあるんですけども、まず基本方針をどうするかということに対して、町長に諮問するというふうなこの委員会の位置づけの方は理解しています。ただ基本計画のABC案を決めるっていう、一つに絞るっていうふうなことまでこの委員会でするのか、それともA案にはこの委員会ではこういう意見、B案にはこういう意見、C案にはこういう意見でその上で最終的には町長の方で決めるというものなのか。僕は、後者なのかなというふうに理解していましたので何かこの推進委員会でABC一つに絞り込むのか、それとも

それぞれに対する意見を諮問するのかっていうことについては明確にしておいた方がいいのではないかなというふうに思います。以上です。

【事務局】

お答えします。F委員のおっしゃる通り、ここでABCを決めるということではなく、委員会として一つであればそれはそれでいいかもしれません、委員会としては例えばA案とかですね。ただ、そうじゃなくてもそれは委員会としてどういう意見だったっていうのを踏まえて、またそれだけじゃなくて町長は様々な場で、例えば住民説明会であったり、パブコメだとかいろいろ意見が出てくる場合もあると思いますので、それを踏まえて最終的には町長が判断するというところで、この委員会の決定が、いわゆる最終的な決定になるということではないということでご理解いただければと思います。

【委員長】

はい、議事運営の私の立場から言わせていただくと、そもそもこの委員会がABCに対してどういう意見を持ってるかっていうことは、基本的には取りまとめておりませんので、その取りまとめ次第によっては、すごく一つの意見が強ければそういうふうに町長に申し上げることになると思いますし、そうじゃなくて非常に分かれれば、そういうふうに申し上げることになるというのが答申の考え方だと思います。

一方で議事の途中では、その皆さんの間で、やはりどれかの意見が強いというようなことを前提に、例えば議論していただかないと、議論自体がわかりにくくなるかと思うので、それはそれで皆さんの中で、この委員会の中ではこの意見が強いよね。というような認識を持ってもらっても構わないと思います。今のことは、議事運営上だけの問題ですけどもよろしいでしょうか。

【B委員】

今後のご予定のご説明いただいてありがとうございます。今まで話されてきたことがいろいろ入っていてすごいなと思って見てました。一つだけですね。この委員会の委員のメンバーがまだ膝を突き合わせて、お互いの意見を交換する場っていうのが今までなかったかなというふうに思っていて、このABCをどうするんだみたいなこの具体的なところに関して、何かそういう場があってもいいのかなという、1意見でございます。いつも僕とかばかりが喋りまくって、あと全然お話をされていらっしゃらない委員の方もいらっしゃるんでぜひ

ちょっといろんなご意見がこう場に出てくるような機会があったらいいのかなというふうにちょっと感じております。

【委員長】

ちょっと公式に記録取する場合だけでなく、委員の間の自由懇談会みたいな、そういう場を設けたらどうかというご意見ですね。事務局いかがでしょうか。

【事務局】

そうですね。確かに皆さん同士でお話をしていただいて、議論する場も必要かなと思いますので、ちょっと例えば第11回と第12回の間といった、タイミングとかで何か考えられればと思いますのでまたご協力をお願いいたします。

【委員長】

はい確かに、ここで発言することは公式な発言になってしまうので、そうではないコミュニケーションをとる方法があっても良いということですね。

はい、スケジュールに関してはぜひ今日もアドバイザーの方も参加されているので、アドバイザーの方のそれぞれの視点から見て、今後、今お話のようにABCというのもこれから議論していく前提になってますが、このスケジュールで議論していくっていうことで、どう考えたらいいのかってまさしく、アドバイスをいただければと思います。小林さんからお願いします。

【小林アドバイザー】

はい。まだですね、委員会自体も前回の傍聴が初めてで、今日初めてこういう形で参加させていただいています。

ですので、ちょっと案に対しての理解度が皆様よりもちょっと浅いかもかもしれませんが、先ほどスケジュールの話の中でちょっと気になったのは、ABCの絞り込みっていうのはかなり10月ぐらいからですね積極的にやっていこうという話になってるんですけど、それと同等にですねやっぱり規模の設定っていうところがどうしてもやはり自分としてはですね、大きなファクターがあるんじゃないかなと。当然この基本計画のときにABCというつくり方、建物の構成っていうところと規模、それが合わせて初めて全体的な予算になっていきますし、その基本計画自体が非常に重要な今後のですね、設計に移っていく際の道しるべとなると思いますので、規模の設定というところも、どこかのタイミングでき

ちっとやるということをですね、マイルストーンを当てておいた方がいいかなと思いました。

【委員長】

原アドバイザーお願いいたします。

【原アドバイザー】

今小林さんがおっしゃられたことが大半かなと思ひまして、規模の話は私も大変気になってます。

もう一点は、このスケジュールの話についてはそうですね、スケジュールを期限を決めないで議論をしていくのが理想だというご意見もあるようですけれどもある程度、私の観点からすると目標設定というのは、ある程度決めた上でタスク管理をして、決定事項はどうするのか。というのはどこかで期限を決めてやっていかなければいけない。それで、期限に向けて走ってく上で遅れるっていうのがあるのかもしれませんが、何かそのタスクを、今色々やるべき内容がこの中に列記されてますけれども、その詳細なスケジュール感、そのスケジュール管理をどうやっていくのか、その辺りは非常に重要な項目なんだろうなとは思ひます。

【委員長】

はい、ありがとうございました。ちょっとそれでもう一つ山下三浦さんの方にもこのスケジュールについてのコメント。特に前回もありましたように皆さんには、このスケジュールに従ってABC案を相当並行して設計案的にも具体化していただかないと、検討ができないんじゃないかっていうご意見もあったと思ひますので、それを含めて実現性についてコメントいただければと思ひます。

【山下三浦 J V】

はい山下設計窪田でございますが、概ねこのスケジュール感で当てはめていくことは多分可能かなと思ひていますが、どうしてもABC案が決め事のメインになってますけど、同時進行的に防災的な観点のクライテリア（基準）を決めていかなきゃいけないし、環境性能などもあって、これも同時並行でやっていかなきゃいけないってことはちょっと忘れないでいただきたいというところで。我々としてはABCの検討していくんですけども、パラレル（並行）で防災、環境、あとは様々な条件整理ということはできると思ひますので、それを含めて、ABCの中で決まった案に対して、そのパラレルで動いていったものに当てはめていって精度を高めていくことができますから、ABCが決まってか

ら、そこからまた構造どうするとか、整備どうするってことは一切考えてなくて、同時並行的にやっていくってことでこのスケジュールでやっていきたいというふうに考えています。

【委員長】

言ってみれば複数案を同時に設計していくような形…

【山下三浦 J V】

そうやってしまうということ、A案の構造形式、B案の構造形式というふうになってしまって、それはかなり煩雑になってしまいますので、あくまでも基本計画っていうのは設計の与条件整理なので、構造のレベルなどを一定に決めてそれをA B Cのどれでも当てはめられるように決めていくってことを意味して説明しています。

【委員長】

はい三浦さんの方はいいですか。はい、大丈夫ですか。そしたら本当に先ほど手が挙がったのでF 委員。

【F 委員】

ちょっと確認ですけれども、今アドバイザーの2人から規模というふうなお話ありましたけども、規模については、今日の資料に出ている基本方針案の第5章の中で、既に方針案としては、固まっていて、この規模の案のもとにA B C案があるというふうに理解しています。したがってもう規模の話はしないと思っているんですけども。そうではなくまた規模という話になるのでしょうか

【委員長】

事務局の方からお願いいたします。

【事務局】

はいちょっと、これからまた町長が来たところで内容を説明するところも出てくるんですが、今この規模っていうのは庁舎6,000㎡、公民館機能拡充施設これまでのご説明だと5,000㎡というところでご説明させていただいておりますが、ここの上限というところでこれをどういう規模で縮めていけるのかというところの議論というのは出てくるのかなというところと、あと公民館機能拡充施設につきましては、この見直し前の時点で5,000㎡ぐらいでどうだろうかというところから話がスタートしております。ということではあるんですが、この5,000㎡からスタートでいいのかということを説明会の中で意見としていただい

ておりまして。今のこの公民館自体が大体2,500㎡以下になっておりますが、その2,500㎡に何が足りないのかっていう考え方でやっていくのはどうなんだろうかというご意見をいただいております、その辺そういった考え方もあると思いますので、そこら辺をどういうふうに考えていくのかというのが規模というお話になるかなと思っております。

【F 委員】

確認ですけれども、第5章・第6章に出ている新庁舎の規模、公民館機能拡充施設の規模という具体的な数字も出ていますけれども、この数字はそのままこれからの基本計画の方にも生きてくるという理解でいいですか。

【事務局】

はい、お答えします。すいません。こちら基本方針の中で数字はこのままいくという理解をしていただいて、これが基本計画によってどういう数字になっていくのかっていうのは変わっていくものなのかなというふうにご理解いただければと思います。

【委員長】

多少変わるっていうそういうことですね。

【事務局】

そうです。全くその全然変わるっていうことではなく、これをどういうふうに縮めていくということを考えていく、このようなことになろうかと思ってます。

【委員長】

特に公民館の方はまだ上限しか書いていないので、上限までの間のどこで止まるのかっていうのは今後の議論になるというふうに、基本方針がそういった記述になっていると思われます。

【F 委員】

はい、わかりました。

【委員長】

はいそれでは、町長いらっしゃいましたので町長大変恐縮ですがここまでに町長がいないところの中で、いくつか今から多分ご説明していただくこの委員会の位置づけ等についてのご質問も既にありました。それからここまでの中で財務的な起債の妥当性についても、皆さんに一応事務局からご説明ありました

が、そちらももしよろしければ、町長からも補足いただきたいと、こういうふう
に委員の皆さんからは聞いております。

はい、それではよろしくお願いします。まず事務局よりご説明いたします。

【事務局】

それでは基本方針の策定につきまして、まず事務局よりご説明いたします。こ
の後、土屋町長より基本方針に対するお考えをお話していただき、その後また事
務局より基本方針案の修正部分についてご説明いたしますけれども、まず初め
にですねここで先ほどから何回かご質問をいただいておりますけれども、庁舎
改築周辺整備事業推進委員会の位置づけにつきまして、建付けにつきまして再
度確認させていただきます。資料4をご覧ください。

こちらは、庁舎建築周辺整備事業推進委員の皆様へのお願いとしまして、第2
回の委員会で配付した資料となっております。委員会設置要綱第2条にありま
す通り、委員会の所掌事項は、庁舎改築周辺整備事業に関する事項について検討
および協議し、町長に意見を述べるものとなります。併せまして、本委員会の建
付けとして、町長の附属機関以外の委員会として設置しておりますが、本事業を
推進していくにあたり、住民が参画する唯一の会議体となりますので、非常に責
任のある立場であることということを説明させていただいております。

この建付けに基づきまして、委員の皆様におかれましては本日を入れまして
10回にわたり議論していただきました。皆様からいただきました意見は、事務局
よりその都度、町長に報告しまして、検討を重ねております。

今回の基本方針につきましても、またこれから先のABC案につきましても
ですね、委員会での皆様からのご意見、それから先ほどもありましたけれども、
住民説明会や対話の場での意見を参考にしまして、最終的に町長が判断して決
定というふうになるということを改めて確認させていただきました。一旦、事務
局からは委員会の建付けにつきまして以上となります。

引き続きまして土屋町長より基本方針に対するお考えの方お願いいたしま
す。

【町長】

改めまして皆さんこんにちは。町長の土屋でございます。

今回含めて、10回の委員会にご参加いただきありがとうございます。

また、この8月の忙しい中でも、ご出席いただきましてありがとうございます。以後、着座でお話させていただきます。

令和5年9月に策定した見直し案に基づいて、ずっとこの委員会を発足させて、進めてきたわけですが、今回基本方針の決定ということで一つの区切りのタイミングということで、改めて私の方からお話させていただきたいと思ひましてお時間をいただきました。

まず、振り返りですけれども、2023年の2月に、2月10日に就任したわけですが、当日の午後、その当時の委員会がありましたので出席しまして、ご承知の通り、凍結・見直しというものを、そこで方針を出したわけですね。その際の理由が、大きく分けて4つご説明しておりますけれども、一つが検討プロセスが不十分で、かつ情報公開がされていないということ。

それから二つ目がコストが高いということに加えて財源の根拠が不透明。説明不足も含めてですね。健全性を維持できるのかという確認が必要というのを挙げています。

また、三つ目が庁舎機能の検討にDX推進ですとか働き方改革の観点で不足しているということ。

そして、四つ目が公民館機能については、別扱いということで検討はなされないまま庁舎だけ先行していると。

この主な4つの点で、凍結見直しを決定しましたということです。それに基づいて、今まで内部の機構改革も含めて、また委員会の発足も含めて進めてきておりますので、そういう意味では検討プロセスの不十分ということと、情報公開の徹底ということは、概ねできているというふうに判断をしております。

それからコスト高についても、これはまだまだ議論があるわけですが、ある程度の目安というか、大体見えてきているということと、財源についても、多分事務局から説明もあったかと思いますが、まずその考え方、それからその後、借入（起債）を行った後でも、健全性が維持できるのかと。それから世代間の負担の公平性の観点からご説明したと思いますけれども、そういうふうに考えて健全性を維持できるということで考えております。それからコストの幅についてもご説明したとおり、当初よりも25%上がっておりますけれども、それでも絞り込みする。それから公民館の5,000㎡が上限としてというのは今ご説明したと思いますけれども、ここから実際に必要な従来の公民館2,400㎡程度のところ

からどのくらい加えていくかという視点から、また今までの対話や、それから意見を総合してこれから特に公民館の必要面積というのは、これから詰めていくと、そういうタイミングであるというふうに判断しております。

それから、公民館だけ後でやりましょうということではなく、今回は一緒にやった方が時期的なことも含めてですね、または公民館側と庁舎側での共有スペースのようなこともありますし、当然そこを一緒に並行して考えてきていると。A案は別として、B案にしろC案にしろですね、そういう部分が大きなポイントになってくるというふうに判断しております。

そしてその後ですね、議会との全員協議会の際にも説明していたポイントをちょっと挙げますと、まず一つ目に町側に外部専門アドバイザーを置いて、町主導で進めるべきという意見もいただいてその方向で進めまして、今日ご紹介させていただいた実績もそれから知見についてもしっかりとある2人に就いていただいたと、こういう流れです。ですから、それは一つのメッセージとしてこれは町が主導でやりますと。当然そういう考えの中で別に山下設計さん三浦さんが主導でやるというような誤解があることもあるかもしれませんが、そうではなくて、今までもそうでしたけど、そこをさらに専門的な知見からのアドバイスを得て、町が主導で決めていくということには変わりませんが、そこはしっかりとやると、体制も整えてきたということです。

それから、DX推進についてはご案内の通り4月にCDO（チーフ・デジタル・オフィサー）をこれは小池副町長ですが、CDO補佐官として光谷さんというソフトバンクにおいて自治体のDXの実績もしっかりある方を据えてですね、今また町もDX推進宣言を行って、方向性というか、考えを明確にしたところで進めておりまして、まず一丁目一番地として、ペーパーレスということで取りかかっておりまして、まだ使えるノートPCが課長レベル以上ということでありますけれども、方向性としては最終的に全職員がノートPCを持ってペーパーレスをしていくわけですから、今現在でも課長以上の会議ではペーパーレスでやっていますし、その場で画面に投影しながらいろんな意見は後で直しましょうではなくてその場で直すとかですね、そういうことをやっておりますし、また議会においてもペーパーレスで6月の議会は試験的、9月まで試験的ということになりますが、次からは完全にペーパーレスに移行するという形で進めております。

当然これは、働き方改革とか余分なスペースを削減するという事だけではなくてですね、特に障がいを持った方なんかについてはIT系の使い勝手の良さっていうのは効力を発揮しますし、さらにこちらから出かけていく役場というか、例えば今週は何々公民館にいますので、これだけの手続はもうそこでできますとかですね、DX推進の目的の一つである「書かない」「行かない」とかですね、「時間をかけない」とか、いろんなものがあるわけですが、そういう実現だけじゃなくて、対面のものであっても出かけていってやるというようなことも当然想定しておりますので、そういう方向には着実に進んでいるというふうに考えております。

それから、防災面とか断熱面とかですね、そういうものはちゃんとコストを削らないでくれという意見も当然あったかと思いますが、そこはしっかりと考慮をしているということです。『ZEB』にこだわりませんけれども、ただし、断熱とかですね、そういう地中熱の利用とかそういうものはしっかりと考慮していくと。『ZEB』についていろんなご意見もあると思いますが、この庁舎だけについてその省エネとかですね、環境問題、この小さな枠だけで取り扱うべき問題でもありませんし、補助金を取るためにとにかく『ZEB』だっていうそういうこだわりはないというのは、もう既に説明していると思います。もう少し広域で考えるべき問題であるというふうに私は捉えています。ただし、断熱というのはしっかりとやるべき話で、ここはもう強化は当然していきます。

それから、あと話に挙がっていたのは、内容重視であると。建物だけの議論をしないでくれという意見は当然のように出てますので、そこは職員の内部での検討会もありますし、実際に職員が使う環境を良くするという意味だけではなくてですね、職員から見て、応対するときの使いやすさとか、そういうのをよくわかってるわけですので、そういったものもしっかりと反映して、今までもそういう内部検討会はやってまいすけれども、今後もそういうことですね、内容重視ということは、当然ここは重視してやっていきます。住民の方から見て使いやすさとか、そういうものも大きなポイントで考えています。

あともう一つですね、周辺の景観も考慮していくという中で、18号から見たときに、もうむき出しの建物なわけですがけれども、今の予定では、どの案でも、もうちょっと北側は、ここの公民館を利用するにしろしないにしろですね、北側になってる、これは防災面でも湯川の水が、浅間山の噴火という問題もありますけ

どその全町避難レベルのことでそこを重視して考えるということではなくて、湯川の水があふれるとか、そちらの方が現実的には可能性が高いわけでその際にはできるだけ今の庁舎でも川の水面から7mぐらいありますかね、十分だとは防災関係者の方から言われていますけど、より1m・2m、中央公民館側の方が高いですから、そういう観点で建物を持っていくということですね。防災面もしっかりと力を入れた上で、かつ国道18号から剥き出しではなくて、緑に包まれた形で入っていくと庁舎があつてというような、そういう形でのレイアウト変更になりますし、それから湯川からですね、遊歩道を歩いて北へ上がってきて、そこに今度、信号とかあとは歩道とかですね、そういうことの整備も当然入ってくるわけですが、そして林を抜け、庁舎に寄ると、そこはみんなが集まってくる場所と、以前のときにもですね、交流の場所をさらに作るのとかそういう意見がありますが、そういうことではなくてですね、何となくあそこにはみんないるんじゃないかなとかですね。集まってくる場所ですね、そういうものは十分必要だと思っていますし、それはその庁舎の中ってことじゃなくて周辺ですね、整備の中で、林の庁舎というか、誰かいるんじゃないかみたいなそういう場面の大事さっていうのはあると思いますので、ちょっと長くなりましたけどそんなイメージで考えております。景観についてはそういうイメージをこれからも重視していきます。ですから建物自体のデザインの話はこれからになっていきますけれども、当然軽井沢らしい、当初から質実剛健、機能を重視しながらも軽井沢らしい品格のある風格のある建物というような曖昧な表現はしていませんけれども、合わせてですね、軽井沢らしい建物はどのようなのかとかですね、過去のモダニズム建築を振り返ってとかですね、吉村順三さんとか、坂倉準三さんとかを含めて、そういった建築の、私自身も今いろんなものを見ているし、それからスタッフもそういうものを見学に行ったりとかですね、概ね皆さんがこれは軽井沢らしいなと、でも別に古臭くなくてですね、機能もあわせてということを目指してのデザイン的なことも、水面下ではいろいろお勉強をしているところでもあります。

それから、情報発信を強化してできる限り速やかに内容を公開するということを目指していますが、今は徐々というか、できる限りスピーディーにやっています。まだまだ改善の余地はあるかと思いますが、そういう方向で進めていきます。

そして、方針を決定した後の進め方とこれからということだと思いますけれども、先ほど事務局からも説明ありましたけど、この基本方針にはですね、毎回の委員会の結果を、私は報告、相談を受けて、その都度こうすべきという必要な指示を出していますので、皆さんから意見のあったものを含めて、私の意見というのは反映されています。ですから、報告が上がってきたので、さあ見てくださいということでは全くないということをぜひ、誤解なきようにと思って強調しておきたいと思います。その都度、報告を受けながら必要な指示を出してこれができてきていると、そういうプロセスを踏んでいるということです。

そして最後に、町民の皆さんの負託受けています私自身が責任を持って判断するということです。

ですから、何となく多数決でこの意見が多いんでこれにしましょうではないと。ただ、考え方としては今まで申し上げましたことプラス、もう改めて申し上げたこの考えの中でしっかりと私は判断させていただくと、リーダーシップをとって、今後も判断を続けていくという考えであります。

それで委員の皆様にはそういう中で、本当にその町民の方の意見も吸い上げつつ、またご自身の知見を生かして引き続き意見をいただければと思っております。

そしてもう一点、強調したいのはですね、パブコメを出したり、ワークショップに参加して本当に熱心に（事業に）入っていただいて、いろんなまた今までにない形での意見集約というのもできていると思っていますが、更にですね、この方針ができた後には、例えばそういうところに積極的に参加してない方々。言ってみれば正にサイレントマジョリティー（声なき声）ですね。そういう人たちが意見を出さないから、民度が低いとかそういう極端な意見も出たりするんですけど、私は全くそんなことはないと思っています。その人たちはもうある程度信頼して任せたよという部分の人かなりいらっしゃいます。でもそのままではなくてですね、公民館も回ったりして、こういうことでいいですか。という確認は取っていかうということを今考えています。

ですから、意見を出さない人は全然関心がないというそういう誤解は解いておきたいと思いますし、私はそういう人たちの声もしっかりと反映したいと思いますし、少なくとも任せて信頼されているという前提に立って、今後も決定を

していきたいと思っていますので、その辺りのアプローチを今後強化していきたいとそういうふうに考えております。長くなりましたが以上です。

【委員長】

町長ありがとうございます。町長に対するご質問もいろいろあると思うんですが、多分内容を踏まえた基本方針の修正部分というのが事務局の方でありますので、その説明を先に聞いてからにしたいと思います。よろしくお願いします。

【事務局】

基本方針につきまして前回の委員会からの変更点を中心にご説明いたします。資料の3をお願いいたします。

20ページ第6章 公民館機能拡充施設の規模でございます。前回の委員会では、こちらの現公民館の既存面積と、前回の基本計画での想定諸室及び面積の表は委員会後に公民館機能のゾーニングの図に差替予定としまして、実際に住民説明会ではゾーニングの図となっているものを使用いたしました。比較がないとわからないというご意見をいただきましたので、表を再度入れ込んだうえで、今後、これから具体的に検討していくということを表している「今後の機能・面積想定」の右側の列を追加しました。その内容として21ページと22ページのゾーニング図があるということです。21ページですが、四角の中になります。前回は「必要な機能等をより具体的に検討していく中で優先順位をつけ、5,000㎡から精査していく」としておりましたが、先ほどもありましたが、住民説明会で公民館の規模を考えていく基準として、5,000㎡からではなく、現公民館の規模の2,500㎡から始めるという考え方の方がいいのではないかとのご意見がありましたので、それを踏まえまして「現中央公民館の規模約2,500㎡に必要な機能を付加し、5,000㎡を上限に定めていく」と変更しました。

次の22ページの公民館機能のゾーニングにつきましては、現時点での対話の場等での意見を溶け込ませたものになっておりますので、そのまま載せてございます。内容の変更はございません。

次に23ページになります。1の整備時期につきまして、前回の委員会で「同時整備」という表現が理解しづらい印象でしたので、枠の下に補足説明として「同時整備は、同時に工事を開始することではなく、同じ事業として整備を行っていくという意味である」ことを追記しました。

その下、3整備方法ですが、A案・B案・C案について、基本方針の段階で、町として順位付けのようなものができればと考えまして、その優先度について説明を追記しました。A案については新築の面積が大きいためコストが高くなることから検討の優先度は低いと考え、B案とC案をそれぞれメリットがありつつもライフサイクルコストが同じ数値であったため、基本計画においてさらに検討を進め、早い段階で整備方法を決定していくことを追記しております。

次の24ページにつきましては、前回委員会でご説明しましたが、ライフサイクルコストの視点を追記し、説明会に臨みましたが、言葉などより分かりやすい表現に修正しまして、表の一番下に先ほどの優先度の欄を追加しました。

次は26ページになります。基準の主なものの表中、敷地面積につきまして、民有地取得による拡張分面積を追記しました。

28ページは、赤字部分がありますが、前回と変更はありません。

29ページですが、太陽光発電設備工事費及び外構工事日、既存施設の解体費について、前回から据え置きにしている理由を※8として追加しました。今後の計画により変更する可能性があることや解体棟数が確定していないことを理由として説明しています。

次の30ページと31ページ、財源につきましては、先ほど説明させていただいたとおりです。説明は以上となります。

【委員長】

はい、ありがとうございます。それではここで今の事務局の説明および町長に対するご質問等を受け付けたいと思います。

【F委員】

ご説明ありがとうございます。町長がリーダーシップをとって進めている、ということも聞けてほっとしています。その上で凍結した四つの理由についてもご説明がありましたけどもその中では2番目の財源の健全性についてのお話もありました。起債しても健全性については担保できるというお話がありましたけども、20億起債するのと200億起債するのでは、だいぶその健全性についても変わってくるかと思っています。これから推進委員会の方でA B C案を検討しますが、その際に予算・事業費についてもこういう点からはB案が良い、C案が良いというように意見する材料になります。

その上で、町長はどの程度の起債額までであれば、健全性が担保されているというふうに考えるのか、金額について教えていただければと思います。

【町長】

ありがとうございます。どの程度までというお答えよりはですね、今出ている一つの答え方としてですね、幅が今概算事業費として88億から105億と出ていると思います。この後には設計費とか用地取得とかも出てくるわけですが、その中で着工する頃には基金が40億強が順調にいけば溜まるだろうと。そうすると補助金がどのくらいっていうのはこれからのことになるわけですが、残り部分が仮に50億となったときに、起債、その条件とかいろいろ借りられる条件とかありますけれども、仮にですね、わかりやすくしますと30年だとすると年間1億6000万とか1億7000万としましたら今の一般会計で170億ある中で1%ぐらいとなるかと。これが前回も申し上げたかもしれませんが。年間に仮に500万円使う人が1%というとなら5万円ぐらいになるわけですが、金利はちょっと除いていますが借金返済に500万、収入ではなくて使っているお金が500万の人が年間5万円返済するって感覚だと、それはそんなに負担じゃないなっていうのはちょっと実感としてわかると思うんですが、そのあたりがベースになっていきますので、仮に50億でも1%ぐらいの返済であれば、健全性は十分担保できるとそういうふうに考えています。

【I 委員】

23ページで整備方法の関係について、優先度高いB案とC案ということで、これからの委員会の姿勢としてこのような形でBC案を中心に進めていくという理解でよろしいのでしょうか。

【委員長】

これは事務局答えますか。

【事務局】

はい。基本方針の中でABC案の並列ではなくって、どうしても比べていくとA案はBC案に勝るメリットっていうのはそこまで見いだせないのかなというのが町の考えとしてはあるので、それを落とし込みたいということですが皆様のご意見も踏まえてということにはなろうかと思います。これでよろしければBC案を中心に検討していくということになると思います。

【委員長】

ということで、おそらく今までのこちらの議論でもA案に対する強い良い支持ということがなかったことを踏まえて、町としてはB Cの方を優先するという表現を、この基本方針の中に織り込んで、盛り込みたいということを皆さんに認めていただいて大丈夫かというご質問かと思います。何かご意見、ご反論等ありましたらお願いいたします。もしないようでしたら表現としてこの表現でA B Cまだ一応残っておりますが、B Cを優先して考えるというのは、基本方針時点での取りまとめだというふうにしたいと思います。

【C委員】

当委員会ではあまり議論されなかったと思うのですが、町議会とかそれから去年の町長選とかいうのを過去いろいろな経緯を拝見しますと、分散型か集中型かっていう方はかなり議論されておりました。これについて私は理解が進んでいないんですが、町長としてはとにかく庁舎に関しては、分散型といいますと、例えば一部の福祉関係のところはこちらに移すとか、それから公民館ですと中央公民館に全て集中させるのではなくって、防災の関係も考えれば各地区の公民館の充実を考えるのか。おおよそその辺りについて何かお考えがあれば教えていただきたい。

【町長】

ありがとうございます。確かにおっしゃる通りですね、先ほど説明の中にその点が漏れていたなというのは指摘されて気がついたんですけども、分散型でやるという方針で考えております。

その中には、例えば木もれ陽の里をイメージして、福祉はこっちでっていうようなお話が出たかもしれませんが、既に事務局から説明あったかもしれませんが、対面とかですね、住民の方が使いやすいというものは庁舎の方に入れて、今でも誤解があるんですけども、分散っていうと保健福祉課が木もれ陽の里に残るというような誤解があったわけですけど、そうではなくてあのスペースを有効に使うということですね。ですから、集中してなくてもいい、つまり新庁舎の中にあるべきものを入れて、そうでなくてもできるものは木もれ陽の里などのスペースを使いましょうという、そういう分散型を考えておりまして、それとDX推進はもう両輪であるという、そういう考えです。

【委員長】

はい、当委員会の方であまり議論しなかったのは、分散・集中についてはこの前の見直し方針の方で概ね議論が出ていて、その見直し方針に基づいて当委員会をやったということで、当委員会ではそこまで踏み込まなかったということだと理解しています。

ちょっと先ほどの財務的な話で町長の方からもう少し補足の説明があるようです。

【町長】

すいません。先ほど財源のその健全性についてお話したわけですが、合わせてですね、今積立金ですね、年間3億以上積んでいるわけですね。ですから、それとの比較でいくと、先ほどの年間1億数千万とか2億弱の返済というのは今の積み立てよりも少ないということになりますので、そこだけちょっと補足させていただきます。

【委員長】

はい、他にこの基本方針見直し案について、それをかなり我々がここまでここで議論してきたことに一つ一つ盛り込んでというか、答えていただいた、修正をしていただいたというふうに議事運営上は見ておりますが。

【A委員】

Aです。町長どうもありがとうございました。

先ほど冒頭のお話でだいぶ理解できたので、あんまりコメントはないんですけど一つ教えていただきたいというか確認したい点があって、先ほどから世代間の公平っていう話がすごく出ているんですけど、なんかその言葉に関してはすごく違和感があって、世代間の公平って普通、時世代にツケを回すことをしないようにしましょう。っていうのは世代間の公平で、今生きている我々だって負担するんだから次世代の人だって負担すべきだ。っていうのを世代間の負担の公平化っていうふうに言わないんじゃないかと思うんですけど、すごくその言葉には違和感があって、若者たちの負担っていうのは将来重くなるのは、人口減少社会の中で明らかに見えてるので、日本全体として、そこにツケを回さないで我々が負担できるなら我々が負担するっていうことは何もおかしい話じゃない。と思っていて、何かすごくあの言葉は変だなと思うんですけどそこはどういうふうに理解されていらっしゃるのでしょうか。

【委員長】

では、町長お願いいたします

【町長】

はい、ありがとうございます。等しく将来の世代に配分しちゃいましょうとか、先送りしましょうということではなくてですね、このあたりは考え方の違いもあるかと思うんですけれども、ある程度今生きている人たちで全部負担できるならそれは望ましいとは思いますが、それが無理であればある程度の負担はしていただこうと。一旦設定して、例えば税収が順調にとか、使うべきところがそれほどないということになれば早めに返済するってことも当然考えるわけですが、ある程度の負担は今の計画上はやむを得ないというそういうレベルとして理解していただければと思います。

同じように、とにかく将来の人にも全部負担してもらおうとそういうことでは決まてないですね。例えば積立金が着工前にも今40億は見通していますけど、仮に50億ぐらいになってるとか、60億ということはないとは思いますが、そうやってきたら当然、後は補助金を取れば、起債額は減りますし、それもさらに順調にいけば早期で返済していくと。そういうことも考えている中で、世代間の公平性みたいなものは、ちょっと表現がもしあまりうまくなければもうちょっと良い表現を使いたいと思いますけれども、もちろん現世代で、または行わなければならない福祉の問題とかですね、交通問題とかいろいろあるわけですので、そういう中で結果的にある程度先送りではなくて、一部負担してもらわざるを得ないというか、そういう考えがあった場合はお願いしたいと、そういうことです。少子高齢化の問題もありますけれども、それはちょっと国全体での若者世代のこれから大変になるという問題と絡んでいますのでおっしゃる意味はよくわかりますけれども、私の考えているところは今申し上げた通りです。

【A委員】

わかりました。町長のお考えを100%理解できたというふうに思ってますのでちょっと日本語の表現を変えていただいた方が良い気がします。

無理やり同じ負担をあなたたちもしなさい。というふうに将来世代の人に何か我々が言っている。という日本語に聞こえるんでこれはちょっと誤解がないようにした方がいいんじゃないかなと思ってます。

【町長】

はい、ありがとうございます。そこはもっと今の趣旨がわかるような表現に見直しを考えたいと思います。ありがとうございます。

【委員長】

はいすいません。申し訳ありませんちょっとこちらから名札が見えないんですけども、D委員お願いいたします。

【D委員】

すいません、ちょっとお伺いしたいんですけども、あの建物を建てたらそれを解体するまでに、約事業費の4倍ぐらい金額がかかるということで、もちろん修繕積立金を建物を施工した場合、それを考えてまたそれを積み立てていくということは町は考えてらっしゃると思うんですけども、それを含めてこの事業費が町長が最適であるというふうにお考えというか、将来的に修繕積立金のことも踏まえて考えてらっしゃるかっていうのをちょっとお伺いしたかったんですけど。

【委員長】

4倍以上とは、維持管理費のことを含めて考えられているか、修繕積立金ということをおっしゃってますよね。

【D委員】

そうですね。基本的にマンションとか民間の場合ですと、もう修繕積立金ということで毎月積み立てて10年ごとぐらいに修繕が必要になってくると思うんですけど、公共に関してもやっぱり経年劣化っていうのは必ずあるわけで、必ずそこで修繕積立金が必要になってくると思うんですが、そこは軽井沢町としてどのように考えてるのかっていうのをちょっとお伺いしたかったんです。

【町長】

はい、ありがとうございます。現在の建物もそうですし、それだけではなくて道路、橋、その他ですね、いろんな下水道設備、それから上水道もあらゆるものに、将来的にどう修繕が必要であるとか、リニューアルが必要だとか、それは毎年見直される実施計画の中で織り込んでいきますので、その延長にあるというふうに考えています。ですから当然新しい庁舎・公民館機能ができた場合でも、それは必要な額を積み立てていきますけれども、今より修繕費が全くもう何倍になってしまうという、それはこれからになりますけれども、そういうのは通常の今の一般会計の中で十分吸収できるとそういうふうには考えています。

【委員長】

よろしいでしょうか。他にご質問等あれば、よろしいですか。

【B委員】

ちょっとテクニカルな質問になってしまうんですけど、今までの積立金とか今後のその返済金っていうのは町全体の税収の中から割り当てられるわけであって、何か具体的な財源から割り当てられるわけじゃないという理解で大丈夫ですか。つまり何が言いたいかというと、軽井沢町の場合は別荘からの固定資産税っていうものが非常に大きな財源があって、それがこの将来にわたっても償還金にも割り当てられていくという理解で大丈夫ですか。

【町長】

はい、基本的にはその考えですね。ですから、例えば固定資産税収入が極端に落ちるとかっていうことになる問題が出るんじゃないかって心配もあるかと思いますが、そのためにもこの「軽井沢っていう魅力を落とさない」っていうことでいろんな仕掛けをしているということです。

ですから、例えば日本全体の人口が減るにしても、軽井沢に魅力を感じる人口は減らさないというのが大きなメッセージで、別に何か人気を維持するという意味ではないですけれども、少なくとも魅力は落とさない。この持続性のある軽井沢っていうのを考えていくために、この新庁舎関係だけでなくあらゆる文化ですとか教育とか福祉、交通関係、それは全てそういうところにも繋がっているというふうにご理解いただければと思います。

【B委員】

ごめんなさい、もう一つだけ。将来のところの金利が全然表現されてないのが若干気になりまして、今後金利が今どんどん上がっていく基調になりつつある中で、何か金利の表現もしておいた方がいいんじゃないかなというふうに思いますが。

【委員長】

事務局の補足がありましたらお願いいたします。

【事務局】

はい、当然おっしゃる通り金利っていうのも関係してくると思いますので、そこら辺はまた改めてお示しを、今後行っていきたいと思います。

【町長】

はい、すいません、事務局の補足させていただきますけど、確かに今、金利がこれから上がる局面というのはかなり高い確率で予想されるわけで、そういうシミュレーションを行っていきますけども、本当に長期のスパンで見たときに金利だけ上がるわけではなくて、それは経済状況も改善していくというような流れの中で、それは町としての財源にもある程度の率は反映してくるということもあって、保守的に見ればそれはなしで考えるべきではありますけれども、一般論としてはそういうことも当然想定されるかなと。この10年20年または30年のスパンですね、金利だけ上がって町の税収は変わりませんという局面はあまり考えにくいかなとは思っています。以上一応補足でした。

【C委員】

今の質疑応答で大体それはわかったんですけれども、別のことを伺います。やはりこれから町長としては議会にどう承認を得るためにこれから動かなければならないかというところで、様々な課題があるかと思うんですが、現在、町議会の方向性としては少なくとも前町長のときに議員になられた方が町議になって、その数は、多分私は多いんではないかと思うんですけれども、その辺りのすり合わせはどのようにお考えになられていますか。

【町長】

ありがとうございます。議会に対しては全員協議会の中で今までも説明しておりまして、先ほど冒頭に説明した中では、その中で議会から指摘されたこともだいたい踏まえています。それを反映する形で考えるべきということは反映してやってきておりまして、議会の中ではまた、特別委員会もありますので、その中で必要があれば事務局が行って説明するなどして、丁寧に説明を続けていく予定です。

【委員長】

はい、ありがとうございます。それでは他にありませんか。

このあたりで収めてしまっても大丈夫でしょうか。心残りがなければ・・・

【B委員】

今度非常に抽象的な話になってしまうんですけど、その先ほど町長がおっしゃった軽井沢の魅力を落とさない。ということが非常に重要なことだなと思っていて、庁舎・公民館を建て替えるというプロセスが町にとって大きなイベントだと思うんですけど、このプロセスを通じてとか、この庁舎・公民館ができたこ

とによって町全体の「まちづくり」みたいな観点の中で何かどんなきっかけになればいいかなとか、どんな楽しさとか、わくわくみたいなことが起こればいいかなみたいな。なんかそういうこれをきっかけにこの町がもっともって魅力的になっていくことに関してどんなことを期待していらっしゃるかなということをお伺いできればなと思ひまして。

【町長】

はい、ありがとうございます。先ほどこちと触れたんですけれども、この庁舎だけがポツンとあるのではなくて、全体の環境の中に庁舎もあるというイメージってのは以前からもあるかと思うんですけれども、そういう中で例えばみたいな抽象的な話になりますけど、湯川を散歩してる中でちょっと庁舎周辺で休もうと思っていたら、誰々さんと会ってっていうそういうのが重なってって、やっぱりそれぞれの人のいろんな立場の人でもやっぱり大事なものは自分が所属する場があるってことは大事ですよ。

それは通いの場でもいいですし、趣味でもいいですし、そういう中でこの庁舎が、無理やり交流を作るための施設とかそういう発想ではなくて、この周辺に来ると誰かがいるんだとかですね。こんなことができるとか、そういう場になって、もちろんこの公民館機能っていうのもそういうものを果たしていくと思うんです。庁舎周辺の、ですから林の部分が増えますと、ちょっとそれるようすけれども、民間の土地をこれから買わせていただきますというのは、トータルで見るとその分だけ緑を増やすことになるわけですよ。

ですから、庁舎建築費用っていう見方もありますけど、緑を増やす費用っていう言い方もあるわけです。別の観点では。ここでも建てられるところを増やしてその分緑が増えわけですから。ですから、そういう形にこの周辺ができていくといいなっていうことで、例えばそういう中で子供たちも来て、何かそういう発表の場を、自発的にやっていると。そうなったらそういう整備ももうちょっとしましようとかですね。

あの、今回（建物が）できてこれ完成形じゃないと思いますし、建物ができたところでスタートですから、その使い方とか中身とか周辺整備は、皆さんで作っていくものですよ。なのでそういうのが自発的に出てくると、良い環境の中でそういうスペースなり、そういうその環境に優しいけどそんなその屋外で交流するスペースが必要になってくればまたそういうものを整備するかもしれませ

んし、このタイミングでこんなことを申し上げていいかわかりませんが、イメージということですから、そういう形で、その町民の憩いの場というよりは交流の場なり自分の所属する場みたいな形で、この周辺が頭の中にあって、何かあそこ行ってみようというような形になればいいなというふうに、ちょっと抽象的ですけどそんなふうに考えています。それが軽井沢の魅力を上げることのかなり大きなポイントになってくるかなと思っています。

【C委員】

ありがとうございます。すごく私は納得しております。ただですね、非常に現実的な問題として私がこの場におりますのは町民ではなく、別荘を所有してそれで利用させていただいる立場で、ある意味今まで別荘住民というのはちょっと町政からは外れていたんですけれども、それがこの取り組みで入れていただけたというのを大変ありがたく思っています。

ありがたく思っているところで、注文をつけて大変申し訳ないんですけれども、現実的に別荘で私がよくお会いする方々が何がこの周辺で一番関心があるのかっていったら軽井沢病院なんですね。もちろん周辺整備事業の中にいずれ軽井沢病院が建替えになると。そのときに例えば浅間山が美しく見えるとか、そのためにこちらの庁舎は少し軒を下げるとかですね。そういうことはあるにしても、そういうことではなくて、軽井沢病院の経営内容ですね。それから診療レベル。これについて実は別荘住民はものすごく関心を持っております。

ですので、軽井沢のその魅力というのはもちろん昭和初期からくるいわば別荘文化、それもありますけれども、これからの我々住民としてですね、医療サービスってこともすごく大きい問題だということをぜひお考えいただき、ちょっとすいません、委員会とは外れましたけれども。

【町長】

せっかくいただいた意見ですので、お話しますと、そこは深く意識をしております。まちづくりビジョンなど出前講座で話させていただくときには、ポイントに挙げています。防災・医療・安心安全というのが大きな整備するポイントという中で医療というのを挙げていまして、今医療、経営状態の改善というのがありますけれども、医療専門コンサルタントを4月から入れてですね、病棟再編もそうですし、どういう方向性を出すべきか、その中には高齢化していますから、別荘の方だけじゃなくてになりますけど、訪問看護と訪問医療ですね。これは別

荘の方にも大きく影響しますし、私の知り合いの別荘の方でも今、発地のロッヂさんが訪問介護とかやっていますので、それができて良かったという話も直接聞いたりしてですね、軽井沢は将来的にもそのようなことを考えていきます。

そういう中で、この医療体制をしっかりと整備するっていうのは大きなポイントですので、普通の観光客の方でも、今のコンサルでデータ取りますと、やっぱり8月は観光に来て怪我しました、事故ですっていう人がかなり増えますので、そういう別荘だけじゃなくて、訪れる全ての人にとってやっぱり軽井沢病院はしっかりと維持していかなくちゃいけないと。もちろん総合病院的な科を揃えていますので、2万1千数百の町民だけでそれが維持できないということもありますので、例えばちょっと突っ込んだ話になりますけど、一般会計からの繰入っているのはですね、そういう別荘の方らへの安心費用であるという側面もあるということなんですよね。そういうことは失わないように、かつ、財務の健全性とか改善をやっていますし、また良いドクターを確保するとかですね。そこはしっかりと今後も。逆に言うと、今調査している中では別荘の方はどうしても主治医の方が東京なんで、本当に緊急時以外はあんまり利用していただけていないっていうデータも出ていまして、それをどうやって安心して来ていただくかっていうのも一つのテーマにしております。以上です。

【委員長】

はい、ありがとうございます。

はい、それではよろしいですかね、それではですねありがとうございました。基本方針、ここまで10回に渡ってこの委員会で議論してきまして今日も修正部分を作っていただいて、委員会としてはこの内容についても議論を尽くしたということで、後はもちろんこれを最終的に議会等を含めて策定という形でオーソライズ（整理）していただくのは、この場合じゃなくてってことになりますけども、この委員会としては今日出てきた意見も含めてお渡しし、最終判断をいただくということにしたいと思います。

ただ、最初に申しましたようにスケジュールでもありましたように、我々としては引き続きこの基本計画という段階で議論を続けていくということになる予定です。スケジュールについては先ほどお話しした通りです。

今日は残りの議題はですね、(6)のその他だけになったと考えております。その他について事務局の方であつたらお願いいたします。

【事務局】

それではその他について2点ほどお願いいたします。

まず一点目ですけれども本日の委員会での意見等を踏まえまして、今月末を目途に町長が判断して基本方針を策定いたします。

(二点目) 次回第11回の推進委員会につきましてですけれども、先ほどのスケジュールにもありましたが9月の意見聴取の期間であったり、基本計画の策定に向けて準備を予定しておりますので、10月の中旬あたりを予定させていただいております。まだ日程が決まっておりませんが、確定次第、皆様には改めて初めにご連絡をさせていただきますのでご予約の確保の方をお願いいたします。

なお、9月委員会の開催自体はございませんけれども進捗状況等についてはこちらから委員の皆様にご共有をさせていただきます。なので、何か推進委員としてご提案等もございましたら事務局までお願いしたいと思っております。

以上、事務局からその他について説明を終わります。

【委員長】

はい。他に委員の皆さんからその他の部分が何かありますか。ないようでしたら、これで今回の議事を終了させていただきます。皆様のご協力のおかげで私の方も議長の職務を遂行することができました。大変ありがとうございました。

今後ともよろしくお願いします。

【事務局】

はい、それでは最後ですね、池田委員長どうもありがとうございました。また委員の皆様には長時間にわたり大変お疲れ様でございました。

以上をもちまして、本日の委員会の方を終了させていただきます。ありがとうございました。